

# 『大学入学共通テスト 英語〔リーディング〕 実戦対策問題集〔改訂版〕』

## 2025 年度本試験問題と本書の構成

\*2025 年度より、新課程問題〈論理の探求〉が加わりました。

2025年度 大学入学共通テスト 英語〔リーディング〕問題構成		本書の構成	
大問番号	問題内容	大問番号	
第1問	資料読解問題 (パンフレット)	⇒ 第1問	B
第2問	資料読解問題 (ブログ)	⇒ 第2問	A
第3問	資料読解問題 (手記)	⇒ 第3問	B
第4問	資料読解問題 (論理の探求)	⇒ 新課程第B問	
第5問	資料読解問題 (2つの資料の対照)	⇒ 第4問	
第6問	長文読解問題 (物語文)	⇒ 第5問	
第7問	長文読解問題 (評論文)	⇒ 第6問	B
第8問	長文読解問題 (論理の探求)	⇒ 新課程第A問	

### 【リーディング問題形式変更の概要と対策アドバイス】

#### ■ Part 1 第1問～第4問 (解答時間の目安：25分)

第1問～第4問はさまざまな分野・形式の資料を読んで答える資料読解問題です。2025年度から、新課程問題である第4問〈論理の探求〉が加わりました。〈論理の探求〉は、従来型の資料読解問題の英文中に「述べられた内容を探すだけ」の解答作業と異なり、与えられた文章素材の中身を「よりよいものにするにはどのような工夫・修正が必要か」を考える必要があります。思考力と論理性というまさに〈探求〉的視点が必要になります。高得点を狙う受験生にとってはこのPart 1のカギを握る問題であり、十分な練習が必要になります。予備校の模擬試験問題をはじめとする「そっくりさん」の問題を積極的に活用しましょう。従来型の第1問～第3問については、2026年度以降も読解資料の種類はさまざまに変更されます。しかし、それはあくまで表面上の変化であり、求められる力は先に述べた通り「書いてあることを答える」ごく一般的な読解力に過ぎないため、「見た目の変化」に過敏に反応する必要はありません。ただし、共通テストの読解資料は年を追うごとに長くなる印象があり、ある程度の分量の素材を一通り素早く眺める力は日頃から鍛えておく必要があります。第1問～第4問を通しての配分時間は25分が目安になります。本書を通じて問題の視点や解答のポイントを理解した上で、1問あたり5分～6分での解答演習に励みましょう。

## ■ Part 2 第5問・第6問 (解答時間の目安：25分)

第5問からは実質的な長文読解問題が並びますが、第5問はPart 1から続く資料読解問題です。読解資料が2つになり、2つの資料を比較・対照させる必要がある点が第1問～第4問と異なります。この問題は2024年度までの旧課程リーディング問題第4問と同一ですので、本書を通じて攻略のポイントとなる「2つの資料の対照問題」の解答作業のリズムを正しくマスターしましょう。2026年度以降も対照問題は必ず出題されます。第6問は旧課程リーディング問題第5問です。オーソドックスな物語文長文読解問題であり、高得点を狙う受験生にとってミスの許されない1問です。第5問、第6問とも、目安となる解答時間は12分。2問合計25分の枠に確実に収まるよう、解答作業を安定させる必要があります。

## ■ Part 3 第7問・第8問 (解答時間の目安：30分)

第7問は旧課程リーディング問題第6問と同一の評論文長文読解問題です。ある意味で最も共通テストらしさの薄い問題であり、「ごく普通の長文問題」と言えるでしょう。対策にも「これがポイント！」といった特別な注意点はありませぬので、本書で正しい作業手順をマスターした後、練習問題で速さと正確さを磨いてください。最後の第8問が新課程問題、第4問に続く〈論理の探求〉です。第4問が「資料に手を加えてさらに論理性を高める」という「修正型」の視点で作られているのに対し、第8問は「主張を1から組み立てて完成させる」プロセスを論理的に矛盾なく追うことができるかを問う「構築型」の視点で作問されています。高校教育課程の〈探求〉授業が目指す「構築 + 修正 + 再構築 + 再修正 + 再再構築 + …」というスパイラルの中にある2つの要素をそれぞれ問題化したものであることがよくわかります。最先端のコンセプトで作られた問題だけに、現在の大学入試問題には類題と言えるものはありませんが、2025年度本試験以外にも予備校の模擬試験問題を中心に「そっくりさん」はすでに十分な数が存在します。本書で「着眼点と作業の流れ」を正しく理解し、数多くの「そっくりさん」を利用して対策を進めましょう。解答時間は第7問が12分、第8問が15分です。第8問にある程度時間をかけられるよう、第7問の解答時間をできるだけ短く抑えることがポイント。2問合計で30分オーバーは「時間超過」と意識してトレーニングに取り組みましょう。

## □ 演習のポイント

演習はPart 1, Part 2, Part 3の3パートに分けて行い、それぞれの消費時間を記録しておく自分の作業上の修正ポイントがどこにあるかが把握しやすく、非常に有効です。「Part 1に30分以上かかってしまう」という自分の傾向が明らかになれば、Part 1の「どの問題のどこに時間がかかりすぎているのか？」をさらに突き詰めて原因を明らかにすることができるからです。共通テストのリーディング問題は大問ごとにそれぞれの特徴を持ちますが、解答作業自体に特別な煩雑さはありません。英語の基礎知識を十分に身につけることはもちろん受験勉強として不可欠ですが、共通テストという特定の試験の対策としては「時間がかかりすぎる原因がどこにあるのか？」を突き止め、改善させることが高得点獲得に向けて大きなカギを握るポイントになります。そのことを十分に意識しつつ充実した対策を重ね、高得点獲得の足元を固めてください。